

# デビットカード取引規定

この規定は、「京銀キャッシュカード」「京銀 IC キャッシュカード」「京銀キャッシュカード・マネジメント」「京銀 RICH カード」「京銀フルセットカード（「ご預金」側）」「Kyoto Card Neo（京都カードネオ）」の各カードに適用します。

## 1. 適用範囲

- 当行が普通預金（総合口座取引の普通預金を含みます。）に対して発行する次のカードをデビットカードとします。
  - 京銀キャッシュカード
  - 京銀 IC キャッシュカード
  - 京銀キャッシュカード・マネジメント
  - 京銀 RICH カード
  - 京銀フルセットカード（「ご預金」側）
  - Kyoto Card Neo（京都カードネオ）
- 次の各号のうちのいずれかに該当する者を「加盟店」といいます。
  - 日本電子決済推進機構（以下「機構」といいます。）所定の加盟店規約（以下「規約」といいます。）を承認のうえ、機構に直接加盟店として登録され、機構の会員であるまたは複数の金融機関（以下「加盟店銀行」といいます。）と規約所定の加盟店契約を締結した法人または個人（以下「直接加盟店」といいます。）。但し、当該加盟店契約の定めに基づき、当行のカードが直接加盟店で利用できない場合があります。
  - 規約を承認のうえ、直接加盟店と規約所定の間接加盟店契約を締結した法人または個人（以下、「間接加盟店」といいます。）。但し、規約所定の間接加盟店契約の定めに基づき、当行のカードが間接加盟店で利用できない場合があります。
  - 規約を承認のうえ機構に任意組合として登録され加盟店銀行と加盟店契約を締結した民法上の組合の組合員であり、規約を承認した法人または個人（以下、「組合事業加盟店」といいます。）。但し、規約所定の組合契約の定めに基づき、当行のカードが組合事業加盟店で利用できない場合があります。
- デビットカード（以下「カード」といいます。）を加盟店に提示して、当該加盟店が行う商品の販売または役務の提供等（以下「売買取引」といいます。）について当該加盟店に対して負担する債務（以下「売買取引債務」といいます。）を弁済する取引を、以下「デビットカード取引」といいます。
- デビットカード取引は、当該カードの預金口座（以下「預金口座」といいます。）から預金の払戻し（「総合口座取引規定」および「京銀総合口座 RICH 当座貸越契約書」にもとづく当座貸越による払戻しを含み、「京銀フルセット口座当座貸越契約書」にもとづく当座貸越による払戻しを含みません。）によって行います。
- デビットカード取引については、この規定により取扱います。

## 2. 利用方法等

- カードをデビットカード取引に利用するときは、加盟店に設置されたデビットカード取引の機能を備えた端末機（以下「端末機」といいます。）にカードを読み取らせ、表示された売買取引債務の金額を確認したうえで、端末機に届出の暗証を第三者（加盟店の従業員を含みます。）に見られないよう注意し、自ら入力してください。
  - 次の場合には、デビットカード取引を行うことはできません。
    - 停電、故障等により端末機による取扱いができない場合
    - 1回あたりのカードの利用金額が、加盟店が定めた最高限度額を超え、または最低限度額に満たない場合
    - 1日あたりのカードの利用金額が、当行が定めた金額の範囲を超える場合
    - 購入する商品または提供を受ける役務が、加盟店がデビットカード取引を行うことができないものと定めた商品または役務に該当する場合
    - 当行所定の回数を超過してカードの暗証を誤って端末機に入力している場合
    - カード（磁気ストライプの電磁的記録を含みます。）が破損している場合
  - 当行がデビットカード取引を行うことができると定めた日または時間帯以外は、デビットカード取引を行うことはできません。
  - デビットカード取引を希望されない場合には、本人から書面その他の当行所定の方法により当行に届出てください。この届出を受けたときは、直ちに利用停止の措置を講じます。この届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。
  - デビットカード取引は、当行所定の現金自動預入払出兼用機（以下「自動機」といいます。）を使用して利用停止とすることができます。利用停止には、自動機の画面表示等の操作手順に従って、自動機にカードを挿入し、届出の暗証その他の所定の事項を入力してください。この場合、前項による届出は必要ありません。
- ## 3. デビットカード取引契約等
- 前条第1項により暗証の入力がされたときに、加盟店との間で売買取引債務を預金口座の払戻しによって支払う旨の契約（以下「デビットカード取引契約」といいます。）が成立するものとします。ただし、暗証入力後、端末機に口座引落不能を表す電文が表示されたときは契約は成立しなかったものとします。
  - 前条第1項により暗証の入力がされたときに、当行に対して売買取引債務相当額の預金払戻しの指図および当該指図にもとづいて払戻された預金による売買取引債務の弁済の委託がされたものとします。この預金払戻しの指図については、通帳および払戻請求書の提出は必要ありません。ただし、暗証入力後、端末機に口座引落不能を表す電文が表示されたときは預金払戻しの指図および売買取引債務の弁済の委託はなかったものとします。

## 4. 取引が解消された場合の取扱い

- デビットカード取引契約が解除（合意解除を含みます。）、無効または取消等により適法に解消された場合、デビットカード取引契約が成立した日の翌日以降は、預金口座の預金の復元を請求することはできないものとします。
- 前項の場合、デビットカード取引契約が成立した当日中は、当該デビットカード取引を行った加盟店にカードおよび加盟店が必要と認める本人確認資料等を持参して、加盟店経由で預金口座の預金の復元を請求できるものとします。この場合、カードを端末機に読み取らせてください。ただし、端末機から取消の電文を送信することができないときは、預金口座の預金の復元はできません。
- 第1項または前項において預金口座の預金の復元ができないときは、加盟店から現金により返金を受ける等、加盟店との間で解決してください。
- デビットカード取引において金額等の誤入力があったにもかかわらずこれを看過して端末機にカードの暗証を入力したためデビットカード取引契約が成立した場合についても、第1項から前項に準じて取扱うものとします。

## 5. 読替規定

- カードをデビットカード取引に利用する場合における京銀キャッシュカード規定等の適用については、次のとおり読替えるものとします。
- 京銀キャッシュカード規定第10条第1項中「預金の預入れ・払戻しおよび振込の依頼をする場合」とあるのは、「デビットカード取引をする場合」とし、同規定第12条中「窓口でカードにより取扱った場合」とあるのは、「デビットカード取引をした場合」とし、同規定第14条第2項中「自動機」とあるのは、「端末機」とし、同規定第17条中「自動機」とあるのは、「端末機」とします。なお、同規定第15条、第16条に定める規定は、デビットカード取引に伴う預金の払戻しには適用されません。
  - 京銀 IC キャッシュカード規定第1条第2項中「この規定に定めのない事項について」とあるのは、「IC カードをデビットカード取引に利用する場合」とします。
  - 京銀キャッシュカード・マネジメント規定第9条中「窓口でカードにより取扱った場合」とあるのは、「デビットカード取引をした場合」とし、同規定第12条第2項中「自動機」とあるのは、「端末機」とし、同規定第12条中「自動機」とあるのは、「端末機」とします。
  - 京銀 RICH カード規定第10条第1項中「入金・払戻しおよび振込の依頼をする場合」とあるのは、「デビットカード取引をする場合」とし、同規定第12条中「窓口でカードにより取扱った場合」とあるのは、「デビットカード取引をした場合」とし、同規定第14条第2項中「自動機」とあるのは、「端末機」とし、同規定第17条中「自動機」とあるのは、「端末機」とします。なお、同規定第15条、第16条に定める規定は、デビットカード取引に伴う預金の払戻しには適用されません。
  - 京銀フルセットカード規定〔キャッシュカードサービス〕第9条第1項中「預金の預入れ・払戻しおよび振込の依頼をする場合」とあるのは、「デビットカード取引をする場合」とし、同規定第11条中「窓口でカードにより取扱った場合」とあるのは、「デビットカード取引をした場合」とし、同規定第13条第2項中「自動機」とあるのは、「端末機」とし、同規定第16条中「自動機」とあるのは、「端末機」とします。なお、同規定第14条、第15条に定める規定は、デビットカード取引に伴う預金の払戻しには適用されません。

## 6. 規定の変更

この規定は、店頭表示その他の相当の方法で公表することにより、変更することができるものとします。

## （ご注意）

- 貯蓄預金について発行した京銀キャッシュカードおよび京銀 IC キャッシュカードは、デビットカード取引を行うことはできません。
- 京銀フルセットカードは、「ご預金」側のみデビットカード取引を行うことができます。

以上

（平成30年4月2日現在）